



環水大大発第 120724004 号  
平成 24 年 7 月 24 日

都道府県  
各 大気環境主管部(局)長 殿  
政 令 市

環境省水・大気環境局大気環境課長

石綿含有断熱材を使用した煙突(工作物)の解体等作業における  
石綿の飛散防止対策の徹底について(通知)

環境省では、平成23年6月から東日本大震災の被災地におけるアスベスト大気濃度調査を実施しており、これまでに、建築物のアスベスト除去工事において、集じん・排気装置の不具合等によると思われるアスベストの飛散事例を4件確認しています。

この度、工作物である石綿含有断熱材を使用した煙突の解体において、集じん・排気装置の吸引能力不足、あるいは集じん・排気装置の不具合が原因と推定されるアスベストの飛散事例が2件確認されました。

これらの事例によって、周辺環境への影響が生じたものではありませんが、同種の事態の発生により大気汚染が生じることも懸念されるため、工作物の解体に関しても対策を更に徹底する必要があります。

については、更なるアスベスト飛散防止の徹底を図るため、貴職におかれましては関係機関と連携のうえ、工作物の解体作業においても、下記について関係事業者への指導等の対応をしていただくようお願いします。

なお、別添のとおり、関係団体の長あて要請を行ったことを申し添えます。

記

集じん・排気装置の保守点検については、平成23年1月27日付け基安化発第0127第1号、環水大大発第110127002号「石綿等が吹き付けられた建築物の解体等の作業等における集じん・排気装置の保守点検の徹底等について」及び平成23年6月30日付け基安化発第0630第1号、環水大大発第110630002

号「石綿等が吹き付けられた建築物等からの石綿等の飛散及びばく露防止対策の徹底について」で都道府県労働局労働基準部長及び各都道府県・政令市大気環境部（局）長あて通知しているところである。

集じん・排気装置の運用、管理については、「建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル 2011」に詳細が掲載されており、本事例に関しては次の事項について特に留意願いたい。

## 1．設置台数の決定

集じん・排気装置の能力は、最低でも4回換気を確保できるよう台数を決定する。

排気ダクトが長い場合、曲がりが多い場合等は圧力損失を考慮して排気能力を設定し、設置台数を算定すること。

## 2．集じん・排気装置の配置計画

隔離された作業場では、セキュリティゾーンから空気を取り入れ、集じん・排気装置により清浄化した空気を排気する。そのため、集じん・排気装置はできるだけセキュリティゾーンの対角位置に設置し、作業場内で空気の溜まりを生じさせないように集じん・排気装置を配置するよう計画すること。

作業場の形状等から空気溜まりの生じる恐れがある場合は、集じん・排気装置を追加するか、吸気ダクトを用いて溜まり部分の空気を吸気する等の措置を講じることが必要となる。なお、集じん・排気装置設置後、装置を稼働させ、スモークテスト等で作業場内の空気の流れを確認すること。

特に、セキュリティゾーン近傍に集じん・排気装置を設置した場合、空気がセキュリティゾーンと集じん・排気装置間でショートカットするため、作業場内全体の負圧が確保されないばかりか、隔離作業内に発生したアスベスト含有粉じんを吸引・ろ過することもできないため注意が必要である。

建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル 2011

( [http://www.env.go.jp/air/asbestos/litter\\_ctrl/manual\\_td/index.html](http://www.env.go.jp/air/asbestos/litter_ctrl/manual_td/index.html) )

- |                          |               |
|--------------------------|---------------|
| ( 1 ) 集じん・排気装置の負圧化       | 78 頁から 82 頁   |
| ( 2 ) 集じん・排気装置の運用、管理     | 159 頁から 165 頁 |
| ( 3 ) 石綿含有建材除去作業等チェックリスト | 186 頁から 238 頁 |

環水大大発第 120724005 号  
平成 24 年 7 月 24 日

別記団体の長 殿

環境省水・大気環境局大気環境課長

石綿含有断熱材を使用した煙突（工作物）の解体等作業における  
石綿の飛散防止対策の徹底について（通知）

環境省では、平成 23 年 6 月から東日本大震災の被災地におけるアスベスト大気濃度調査を実施しており、これまでに、建築物のアスベスト除去工事において、集じん・排気装置の不具合等によると思われるアスベストの飛散事例を 4 件確認しています。

この度、工作物である石綿含有断熱材を使用した煙突の解体において、集じん・排気装置の吸引能力不足、あるいは集じん・排気装置の不具合が原因と推定されるアスベストの飛散事例が 2 件確認されました。

これらの事例によって、周辺環境への影響が生じたものではありませんが、同種の事態の発生により大気汚染が生じることも懸念されるため、工作物の解体に関しても対策を更に徹底する必要があります。

については、更なるアスベスト飛散防止の徹底を図るため、貴協会におかれましても、傘下事業者に対して、工作物の解体作業においても、下記についてご留意の上、大気汚染防止法の遵守の徹底について周知していただくようお願いいたします。

記

集じん・排気装置の運用、管理については、「建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル 2011」に詳細が掲載されており、本事例に関しては次の事項について特に留意願いたい。

1. 設置台数の決定

集じん・排気装置の能力は、最低でも 4 回換気を確保できるよう台数を

決定する。

排気ダクトが長い場合、曲がりが多い場合等は圧力損失を考慮して排気能力を設定し、設置台数を算定すること。

## 2. 集じん・排気装置の配置計画

隔離された作業場では、セキュリティゾーンから空気を取り入れ、集じん・排気装置により清浄化した空気を排気する。そのため、集じん・排気装置はできるだけセキュリティゾーンの対角位置に設置し、作業場内で空気の溜まりを生じさせないように集じん・排気装置を配置するよう計画すること。

作業場の形状等から空気溜まりの生じる恐れがある場合は、集じん・排気装置を追加するか、吸気ダクトを用いて溜まり部分の空気を吸気する等の措置を講じることが必要となる。なお、集じん・排気装置設置後、装置を稼働させ、スモークテスト等で作業場内の空気の流れを確認すること。

特に、セキュリティゾーン近傍に集じん・排気装置を設置した場合、空気がセキュリティゾーンと集じん・排気装置間でショートカットするため、作業場内全体の負圧が確保されないばかりか、隔離作業内に発生したアスベスト含有粉じんを吸引・ろ過することもできないため注意が必要である。

建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル 2011

( [http://www.env.go.jp/air/asbestos/litter\\_ctrl/manual\\_td/index.html](http://www.env.go.jp/air/asbestos/litter_ctrl/manual_td/index.html) )

- |                          |               |
|--------------------------|---------------|
| ( 1 ) 集じん・排気装置の負圧化       | 78 頁から 82 頁   |
| ( 2 ) 集じん・排気装置の運用、管理     | 159 頁から 165 頁 |
| ( 3 ) 石綿含有建材除去作業等チェックリスト | 186 頁から 238 頁 |

< 別記団体 >

中央労働災害防止協会

建設業労働災害防止協会

社団法人 JITI 協会

社団法人日本建設業連合会

社団法人作業環境測定協会

一般社団法人日本環境測定分析協会

社団法人全国解体工事業団体連合会

社団法人日本化学工業協会

社団法人日本プラントメンテナンス協会

社団法人日本ビルヂング協会連合会

社団法人建築業協会